

- 2 天草を「陶石の島」から「陶磁器の島」へ
- 6 市職員の人数や給与などを公表します
- 8 子どもたちがスポーツ・芸術文化活動に継続して親しむ機会を確保するために
- 10 10月1日から電子図書館サービスが始まります
- 12 いきいき健康
- 13 くらしの情報
- 30 出会う 広がる 地域おこし協力隊
- 31 学芸員のイチオシ／天草見どころ図鑑
- 32 元気☆あまくさっ／〇〇な人み～つけた!
- 33 ハッピーバースデー
- 34 宝島のわだい
- 36 市民のひろば
- 38 休日在宅病(医)院／水道修繕当番店 献血日程
- 39 お出かけ情報／市長コラム
- 40 認知症フォーラムin愛ランドあまくさ2024 うしぶかアドベンチャーレース

天草市公式 SNS



LINE



YouTube



Instagram



Facebook

人のうごき

8月末日現在

8月中の異動		※()内は前月比	
人口	72,243人 (111減)	出生	25人
男	34,182人 (66減)	死亡	122人
女	38,061人 (45減)	転入	93人
世帯数	36,029 (45減)	転出	107人

問い合わせ先

本 庁	天草市役所 ☎23-1111 〒863-8631 天草市東浜町8番1号
支 所	牛 深☎73-2111・有 明☎53-1111 御所浦☎67-2111・倉 岳☎64-3111 栖 本☎66-3111・新 和☎46-2111 五 和☎32-1111・天 草☎42-1111 河 浦☎76-1111

天草を「陶石の島」から「陶磁器の島」へ

第20回 天草大陶磁器展

今年で開催20回目の節目を迎える「天草大陶磁器展」。

天草の宝である天草陶石の振興と窯業の産業化に取り組もうと始まった同展は、第1回目は33だった参加窯元が、近年では100近くが出展する県下最大級の陶磁器展となり、毎年多くの人でにぎわう天草の秋の一大イベントになっています。

今号では、“「陶石の島」から「陶磁器の島」へ”を合言葉に、市内の窯元が進めてきたこれまでの取り組みについて紹介します。

☎天草陶磁器の島づくり協議会事務局
(産業政策課内) ☎32-6786



天草陶磁器とは

天草島内で産出される陶土や陶石を用いて作られる、陶器や磁器を総称して天草陶磁器といいます。

陶土を用いて作られる陶器は、800～1300℃で焼成したもので、熱伝導率が低く「土物」と呼ばれており、また、陶石を用いて作られる磁器は、1200～1400℃で焼成したもので、熱伝導率が高く「石物」と呼ばれています。磁器は陶器と比べると硬く焼き締まって

いて、軽くなったくと金属的な音がするのが特徴です。

この天草陶磁器の振興と、天草地域の文化・産業の発展を図ることを目的に、平成11年に天草島内の8窯元が「天草陶磁器振興協議会(現・天草陶磁振興協議会)」を設立。陶磁器の展示や販売、後継者の育成、さらには天草陶磁器の歴史の発掘や整理に取り組み、資料集の作成や歴史展などの事業を実施してきました。

また、平成12年に天草で開催された熊本県民文化祭で「陶磁器の里」づくりを目指していくことが決議され、平成15年には県内で初めて国の伝統的工芸品の指定を受けました。

「陶磁器の島」づくりを推進する組織が発足

県民文化祭での決議を受け、天草陶石の可能性を島内外に発信するため、平成13年に「陶芸のまちづくり本渡市実行委員会」が発足。現在は名称を「天草陶磁器の島づくり協議会」とし、大陶磁器展の企画・運営のほか、後継者育成や産地化に向けた取り組みを行っています。

天草 History of Amakusa Ceramic Art 大陶磁器展の軌跡

平成13年

**陶芸のまちづくり
AMAKUSA 2001**
本渡中央商店街（銀天街）で
陶芸イベントを開催

平成14年

**陶芸のまちづくり
AMAKUSA 2002**
本渡市民センターで
陶芸イベント・作品展を開催
日比野克彦さん（現・東京藝術大学
学長）による陶板作品制作
※現在は天草市民センターロビーに展示

平成15年

**陶芸のまちづくり
AMAKUSA 2003**
天草陶磁器が国の伝統的工芸品に指定
される

平成16年

第1回天草ほんど大陶磁器展
本渡市市政施行50周年記念事業
として開催



平成17年

第2回天草ほんど大陶磁器展
基調講演に
建築家・隈研吾さんが登壇

平成18年

第3回天草大陶磁器展
名称を変更して開催
パネラーとして
故・八代亜紀さんが登壇



平成19年

第4回天草大陶磁器展
パネラーとして宮沢りえさんが登壇

平成30年

天草陶磁器の島づくり協議会が発足
第17回天草大陶磁器展
新型コロナウイルス感染症拡大のため
規模を縮小して開催

令和3年

新型コロナウイルス感染症拡大を受
け、初めて天草大陶磁器展を中止

令和5年

第19回天草大陶磁器展
令和5年度伝統的工芸品産業功労者
等経済産業大臣表彰で天草陶磁器の
島づくり協議会が優良団体賞を受賞

天草を「やきもの」の産地へ

天草陶磁器の島づくり協議会
会長 岡部 祐一 さん
（水の平焼）



「陶石の島から陶磁器の島へ」の合
言葉のもと天草の窯元が集い、平成12
年の県民文化祭で「やきものの産地化」
を目指す決議がなされ、本格的に活動
をスタートしました。協議会は現在、
市内の21の窯元と市や各種団体で構成
しており、大陶磁器展のほか、天草陶
磁器の認知度向上のための取り組み
や後継者育成など、一年を通して幅広
く活動しています。

大陶磁器展は、出展する窯元数や来
場者数、売上金額が右肩上がりに伸び
ており、認知度も上がってきたと実感
しています。

天草はこれまで、原料（陶石）の供
給地であり、やきものの産地としては
発展してきませんでした。しかし、瀬
戸焼や信楽焼など、良質な粘土や原料
が採れるところは一大産地になってお
り、天草は全国の陶石産出量の約8割
を占めていることから、産地化できる
可能性が十分にあると思っています。

これからは、やきものを単独で販売
するのではなく、やきものを通じて天
草の食を紹介したり、逆に食を通じて
天草のやきものを紹介したりするな
いと思っています。

↓ど、ライフスタイルを提案する
ような販売の仕方にも必要だと考
えています。例えば香港にある
熊本の食材を使った料理店では、
料理長が天草出身というこ
ともあって、店内で使う器に協
議会員の窯元の器を使っていた
だいており、店頭スペースで器
の展示販売も行いました。この
ように、これからのいろいろな業
種と協力し、一緒になって天草
全体の魅力を伝えていきたいで
す。

また、次世代の育成にも力を
入れる必要があると考えていま
す。昔は個人の窯元で5、10
年修行して独立していましたが、
今は個人で人を育てることが
難しい時代になっていきます。
世代を超えて受け継いでいくこ
とで天草の伝統や文化が形成さ
れていくと思っていますので、こ
れから10年・20年先を見据えて、
今できることを考えているとこ
ろです。

今後、天草の産地化に向け、
やきものつながった縁も生か
しながら、やきものをブームと
して終わらせずに天草の文化と
して根付かせるためにも、さま
ざまな取り組みを進めていきたく
いと思っています。

大陶磁器展をいろんな人が 集まる場所にした

天草陶磁器の島づくり協議会
副会長 金澤 佑哉 さん（丸尾焼）



私が大陶磁器展に本格的に関わり始
めたのは平成19年ごろからです。当時
は締め切りに追われることや自分の作
品を出すことがプレッシャーで、準備
期間の9月・10月が近づくのが本当に
嫌になったこともありましたが、しかし、
長年携わっている中で、全国各地の陶
芸家はもちろん、さまざまなジャンルの
表現者と交流できることは、得難い
経験の連続だと思っています。

大陶磁器展は、毎年年間を通して準
備を進めています。どうしたらさらに
魅力的な催しとなるか、協議会の仲間
と協議を重ねています。

他の陶磁器の催しとは異なり、定額
の出展料を設けず、売上金額の一定の
割合をいただくことにしています。そ
うすることでレジをこちらで運営しな
いと思っています。

今年20回目というところで、後継者
育成や20年間の振り返りなど、さま
ざまなイベントを開催予定です。楽し
みにかけてください。

今年20回目というところで、後継者
育成や20年間の振り返りなど、さま
ざまなイベントを開催予定です。楽し
みにかけてください。

第20回 天草大陶磁器展 AMAKUSA CERAMIC ART 2024

と き 11月1日（金）～5日（火）
9:30～17:00（5日は16:00まで）

ところ 天草市民センター 体育館

天草大陶磁器展
ホームページ▶



内 容 展示即売会 北海道から鹿児島まで日本各地の98窯元が出展 / 行列のできる屋台村
器を楽しむ喫茶店 / ろくろ体験 / お楽しみ抽選会 ほか